

# オープンソースソフトウェア貢献への投資対効果 (ROI)

もしOSSが存在しなかったら、組織はプロプライエタリな代替ソフトウェアの購入 (53%) または自社でコード記述 (51%) を行い、必要な機能のために**350万米ドルを費やす**ことになる。



組織がプロジェクトにアップストリームの貢献を行う可能性 (49%) は、**独自フォークを維持する可能性 (45%)** とほぼ同等である。



回答者のほぼ半数 (49%) がOSSロードマップに含まれない機能や修正のために内部で**回避策 (ワークアラウンド)**を開発しており、この活動には組織平均で年間**67万米ドル**のコストがかかっている。



独自フォークの維持には組織平均で1リリースサイクルあたり**5,160労働時間 (25万8,000米ドル)**のコストがかかっている。コストは組織の規模に比例する。



初めて貢献して以来、回答者の**66%**が、アップストリームのメンテナーは**セキュリティ問題**やバグ報告に対して**以前より迅速に対応**するようになったと報告している。



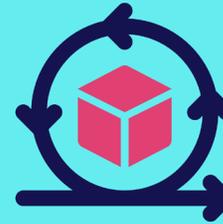
貢献者は、重要な変更に関する**少なくとも2か月前の事前通知**という恩恵を受けている。



回答者の**68%**が、OSS貢献により**人材の採用と維持が容易**になると述べている。



OSS貢献は、製品開発速度で**平均で10%**向上させる。



報告されたOSS貢献による費用対効果比 (利益/コスト比) は、すべての関与コストを通じて**平均2~5倍**である。



組織は、**投資額の5倍もの財団メンバーシップの恩恵**を享受している。主な利益は**ネットワーキング**、マーケティングおよび**ブランド認知の向上**である。



回答者の**3分の2**が貢献を開始してから**ROI (投資対効果) が向上した**と報告しており、さらに多くの人 (70%) が**将来も継続的な向上**を期待している。



経済モデルにより、2018年から2025年の間に**上位100社の貢献者からの39億米ドルの投資**が、**232億米ドルの利益**をもたらしたこと (**約6倍のROI**) が明らかになった。

